

漢字学習のためのグループ練習用教材の開発

— 日本語学習者同士で円滑に学習活動を行うための方法を探る —

濱田美和・高島智美

Development of Teaching Materials for Kanji Learning: Exploration of a Method for Performing Learning Activities Smoothly between Japanese Language Learners

HAMADA Miwa, TAKABATAKE Tomomi

要 旨

本研究の最終目標は、日本語学習者同士で効果的に練習を行えるような漢字教材を開発することである。受講者の習得状況の開きが大きいと、複式で授業を行っている漢字クラスにおいて、学習者同士で練習を進めていくグループ練習の時間を設けている。本稿では、このグループ練習用のワークシート、カード教材に焦点を当て、実際の活動の中で、学習者が適切に使用できているかどうかを、グループ練習時の学習者同士のやり取りの音声データ等をもとに観察した。そして、教師の援助なしで学習者だけで円滑にグループ練習を進めるためには、より指示文を簡潔に提示すること、練習内容を平易にすること、学習者による例文等の作成は扱わないこと、例文の提示方法や解答の与え方を工夫すること、一度に使用するカードの種類や枚数を制限すること、ゲーム的要素の取り入れに注意を要すること、これらの改善が必要であることが分かった。

【キーワード】 漢字クラス、日本語学習者、グループ練習、教材

1 はじめに

受講者間の漢字の習得状況の開きが大きいと、習得状況別に2～4のグループに分け、グループごとに異なる教科書を選定して、複式授業を行っている漢字クラスにおいて、教師の指導の効率化と自習時間の有効活用を主な目的として、2009年度前期から日本語学習者同士によるグループ練習の活動を取り入れている。

グループ練習では、学習者がそれぞれ2～3人のグループを作り、使用教科書の各課の要点にかかわる課題に取り組むことになっている。教師の援助なしで学習者だけでグループ練習を行えるように、補助教材としてグループ練習用のワークシート、カードを用意した。ワークシートは練習を進めるための指示と、課題を達成していく中で出てくる漢字や熟語、それらを用いた例文等を書きこむ欄から成る。グループの構成員がそれぞれ異なるワークシートを使用する課もある¹⁾。解答の提示方法にはグループ内のほかの学習者から与えられるものと、カードの裏に提示されているものがあるが、これらの形で解答が提示しにくいものについては解答ワークシートを作成し、学習者自身でチェックできるようにしてある。課題の中には学習者自身で例文を考える必要のあるものもあるが、この場合は授業後にワークシートを回収し、教師がチェックしてフィードバックするという形で対応している。

高島・濱田(2010)で報告したように、グループ学習を行った学習者たちからは、「グループ練習は習った漢字や言葉を話し合って練習しているので、覚えやすく、応用練習になっています。」「相互に練習すると、自分で勉強するより速いし、深く理解できます。」「覚えにくい漢字や言葉をグループ練習を通じて楽しく覚えています。」「いろいろな練習があるので、楽しい。やる気になる。」「おもしろい。雰囲気も活発になる。」といった肯定的なコメントが数多く寄せられた。2009年度以降も継続してグループ練習の活動を漢字クラスの中で取り入れているが、学習者の様子を見ると、同じ練習活動であっても、活発にやり取りが行われるグループとそうでないグループ、また、グループの構成員が同じであっ

ても、順調に進められる練習活動とそうでない活動がある。これには、グループの構成員、練習活動の内容、教材の形式、その課の学習内容をはじめとして様々なことが影響していると推測される。

そこで、グループ練習の活動を円滑に行うには、教材開発においてどのような点に配慮することが必要なのかを探るため、グループ練習中の学習者の活動の様子を記録して、分析することにした。本稿では、学習者がグループ練習のやり方を理解できているか、時間が足りているか、学習者同士の活動が順調に進んでいるかという3つに焦点を当てて観察し、グループ練習用教材の完成度を高めていくための手がかりを得たい。

2 記録の方法

2012年度前期と後期に開講した中・上級レベルの学習者向けの漢字のクラス²⁾で、グループ練習の様子を次の2つの方法で記録した。1つは、グループ練習における学習者同士のやり取り(学習者と教師・授業補助者とのやり取りも含む³⁾)をICレコーダーで録音したもの⁴⁾で、もう1つは、授業後に教師および授業補助者⁵⁾(以下、「TA」と称する)がグループ練習中の学習者の様子や学習者から受けた質問などをメモしたものである。

記録の対象としたグループ練習の内容は、教科書『漢字1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.1, VOL.2(凡人社発行, 以下, VOL.1を『IMK1』, VOL.2を『IMK2』と称する)に沿って教師が導入した漢字語の定着を図るために行うものである。1グループは2~3人で、学習者の1人が出題してほかの学習者が答えるものと、学習者同士で相談・協力しながら答えを考えるものがある。

今回は12人の学習者(中国3人, ロシア4人, 韓国4人, ブラジル1人)⁶⁾による延べ36のグループ練習を、録音(計10時間8分, 1回当たり平均17分)した⁷⁾。

3 分析の手順

分析の手順は次の通りである。まず、グループ練習時の学習者らのやり取りを録音・文字化したデータのうち、グループ練習のやり方、進行状況に関係する学習者の発言に注目して、学習者が練習方法を理解できているか(やり方)、時間が足りているか(時間)、活動が順調に進んでいるか(進行)について、課ごとに確認していった。さらに、教師・TAによるメモに書かれた情報を加味した後、特に問題が見られなかった場合を「○」、一部の学習者が活動内容を理解できていなかったり、若干のサポートが必要だったり、練習活動が指示と多少違う形で行われていた場合を「△」、学習者の大半が理解できていなかったり、練習活動がなかなか進まなかったりした場合を「×」として分類した。

4 グループ練習における活動の様子

学習者同士で出題・解答する形式のグループ練習における活動の様子を表1に、学習者全員で解答を求める形式のグループ練習における活動の様子を表2にまとめた。

表1 学習者同士で出題・解答する形式のグループ練習における活動の様子

	活動内容	活動の様子
『IMK1』 L1	①漢字1字を用いて、学習者自身で部首・読み・意味用法をもとにクイズを考え出題する。 ②ほかの学習者が漢字を当てる。	グループ1(学習者3人) やり方 学習者同士でやり方を説明、教師もサポートしていた。 × 時間 クイズ作成に手間取る学習者がいた。 △ 進行 不適切な内容のクイズ作成が見られた。 ×
『IMK1』 L2	①漢字1字を用いて、学習者自身で当該漢字を含む熟語とその例文を作って読む。 ②ほかの学習者がそれを聞いて熟語を書き取る。	グループ1(学習者3人) やり方 理解できていた。 ○ 時間 TAの指示もあり、適切に行われていた。 ○ 進行 不自然な例文作成が見られた。 △

	活動内容	活動の様子	
『IMK1』 L4	①平仮名の語を漢字で書いた後、漢字1字が書かれたカードを引き、その漢字を含む語を選んで言う。 ②ほかの学習者は自身がその語を書いていたら、印をつける。	グループ1 (学習者3人) [やり方] 学習者同士でやり方を説明、印のつけ忘れを指摘していた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 順調に「出題→解答」が行われていた。	△ ○ ○
『IMK1』 L5	①同音異義語の1つを選び、学習者自身で当該語を含む例文を作って読む。 ②ほかの学習者がそれを聞いてどの語かを選ぶ。	グループ1 (学習者1人, TA 1人 ⁸⁾) [やり方] やり方を説明する発言はなかった。 [時間] TAの指示もあり、適切に行われていた。 [進行] 不自然な例文作成が見られた。	○ ○ △
『IMK2』 L1	①カードの語の意味、対語などをもとに、学習者自身でクイズを考えて出題する。 ②ほかの学習者がどの言葉かを当てる。	グループ1, 2 (各学習者2人) [やり方] 理解できていた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 一箇所教師がクイズを補足し、出題者を助けていた。不適切な内容のクイズ作成が見られたが、TAが修正していた。	○ ○ △
『IMK2』 L3	ほかの学習者が読む例文を聞いて、カードの語の中から例文中に入る語を選ぶ。	グループ1, 2, 3 (各学習者2人), 4 (学習者3人) [やり方] TAの説明もあり、理解できていた。ただ、途中でTAが指摘するまで、出題者と解答者を交代して行うことに気づいていなかった。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 順調に「出題→解答」が行われていた。	△ ○ ○
『IMK2』 L6	①漢語動詞と意味的に対応する和語動詞を使った例文を作って読む。 ②ほかの学習者が和語動詞と置き換え可能な漢語動詞を書く。	グループ1, 2, 3 (各学習者2人), 4 (学習者3人) [やり方] 教師が傍らでサポートしないと、理解できなかった。 [時間] 個人作業にかかる時間にかかなり差があり、早く終わった学習者が待たなければならなかった。 [進行] 不適切な例文作成によって、解答として不適当なものを正答としていることがあった。	× × ×
『IMK2』 L8	(ワークシートには12の名詞を平仮名で、18の動詞を3語ずつ分けて記載。名詞のみ全員共通。) ①平仮名で書かれた名詞を漢字で書いた後、3つの動詞全てと共起可能な名詞を選び、助詞を添えて書く。各自解答シートで答えを確認した後、3動詞(助詞も添えて)をほかの学習者にカードで示す。 ②ほかの学習者が3動詞と共起する語を12の名詞の中から選ぶ。	グループ1 (学習者3人) [やり方] 理解できていた。 [時間] 個人作業に時間がかかり、グループ練習に十分な時間が取れなかった。 [進行] 出題者が解答を口頭で示すため、助詞を言い間違えてそのまま修正されない場合があった。	○ × ×
『IMK2』 L10	①同音異義語の1つを選び、学習者自身で当該語を含む例文を作って読む。 ②ほかの学習者がそれを聞いてどの語かを書く。	グループ1, 2 (各学習者2人) [やり方] 個人作業は理解できていたが、グループでの練習の進め方の理解に手間取っていた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 不適切な例文作成によって、解答として不適当なものを正答としていることがあった。	△ ○ ×

表2 学習者全員で解答を求める形式のグループ練習における活動の様子

	活動内容	活動の様子	
『IMK1』 L3	①漢字1字が書かれた2枚のカードを組み合わせて熟語を作る。 ②熟語が入る例文カードを探す。	グループ1 (学習者2人) [やり方] カードの扱いを学習者同士で説明、カードの置き方をTAが助言していた。途中から学習者同士で相談し、カードの出し方を変更していた。 [時間] 熟語作成にも例文カード探しにもかなり手間取っていた。最後まで終わらなかった。 [進行] 答えが分からず、なかなか進まないため、学習者同士でばやく場面が多かった。	△ × ×

	活動内容	活動の様子	
『IMK1』 復習 1	形声文字について、部首と音記号のカードを組み合わせて、漢字を作り、その漢字を使った熟語の読みを答える。	グループ 1 (学習者 2 人) [やり方] 学習者同士でやり方を確認していた。カードの扱い、ワークシートへの記入方法を TA に尋ねていた。 [時間] ときどき答えが分からずに時間がかかっていた。最後まで終わらなかった。 [進行] 答えが分からず、ぼやく場面がときどき見られた。個別に取り組む様子が多く見られ、途中、教師が協力して行うよう助言していた。	× △ △
『IMK1』 L7	①漢字 1 字が書かれた 2 枚のカードを組み合わせて熟語を作る。 ②熟語が入る例文カードを探す。	グループ 1 (学習者 2 人) [やり方] やり方を説明する発言はなかった。TA が時間配分を考え、カードの扱いを変更していた。 [時間] TA の指示もあり、適切に行われていた。 [進行] 学習者同士で相談して答える場面も見られ、順調に行われていた。	△ ○ ○
『IMK2』 L2	①各自のワークシートの文中に入る熟語(漢字 1 字はグループ共通)を考え、文を読む。 ②ほかの学習者は熟語を書き取る。	グループ 1, 2 (各学習者 2 人) [やり方] 学習者同士で説明、TA にも尋ねていた。 [時間] 最初の個人での作業に時間がかかり、1 つのグループでは最後まで終わらなかった。 [進行] 指示(例文音読)に従わずに進めていた。	× × △
『IMK2』 L4	①漢字 1 字が書かれた 2 枚のカードを組み合わせて熟語を作る。 ②熟語が入る例文をワークシートから探す。	グループ 1, 2, 3 (各学習者 2 人), 4 (学習者 3 人) [やり方] 理解できていた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 最初のほうで作成した熟語が誤答であることに気づかず、練習途中で行き詰まっていた。TA が指摘し、進行の軌道修正を行っていた。	○ ○ ×
『IMK2』 L5 (前期)	①熟語と接辞の漢字が書かれた 2 枚のカードを組み合わせて複合語を作る。 ②複合語が入る例文をワークシートから探す。	グループ 1 (学習者 2 人), 2 (学習者 3 人) [やり方] 接辞のカードを複数回使えることに中盤以降でやっと気づいていた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 順調に進められていた。	× ○ ○
『IMK2』 L5 (後期)	①神経衰弱の要領で、カード 2 枚で熟語を作る。 ②作った熟語と 1 枚のカードを組み合わせて複合語を作る。 ③複合語が入る例文をワークシートから探す。	グループ 1 (学習者 3 人) [やり方] 理解できていた。 [時間] 神経衰弱の形だったため、熟語を作るのに時間がかかり、最後まで終わらなかった。 [進行] 指示(例文音読)に従わずに進めていた。	○ × △
『IMK2』 L7	①平仮名表記の 6 つの文を漢字仮名交じり文にした後、ほかの学習者と確認する。 ②皆で相談しながら、6 つの文を正しい順に並べる。	グループ 1 (学習者 2 人) [やり方] 理解できていた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 順調に進められていた。	○ ○ ○
『IMK2』 L11	①漢字 1 字が書かれた 2 枚のカードを組み合わせて熟語を作る。 ②熟語が入る例文をワークシートから探す。	グループ 1, 2, 3, 4 (各学習者 2 人) [やり方] 理解していた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] ②の例文探しでは、微妙な語の使い分けで難易度が高く、学習者がぼやく場面もあった。また、指示(例文音読)に従わずに進めていた。	○ ○ ×
『IMK2』 L14	①各自のワークシートの文中に入る熟語(漢字 1 字はグループ共通)を考え、文を読む。 ②ほかの学習者は熟語を書き取る。	グループ 1 (学習者 3 人) [やり方] 文中に入れる熟語が全員分からなかった場合の対応を相談していた。TA も助言していた。 [時間] 最初の個人での作業に時間がかかり、グループでの活動時間は十分に取れなかった。 [進行] 皆でやり取りしても、各自のワークシートの解答が不明なままのことが多かった。	△ × ×

	活動内容	活動の様子	
『IMK2』 L15	①ワークシートの熟語の意味を、学習者自身で考えて言う。 ②ほかの学習者はその語を当てる。 ③皆で相談しながら、その語が入る例文をワークシートから探す。	グループ1, 2 (各学習者2人) [やり方] やり方を説明する発言はなかった。 [時間] 時間が足りなかった。1つのグループは最後まで終わらなかった。もう1つのグループは教師の指示によって途中を省略した。 [進行] 1人がリードする形で順調に行われた。	○ × ○
『IMK2』 L16	①各自のワークシートの表から熟語を探して言う。 ②皆で相談しながら、その語が入る例文をワークシートから探す。	グループ1 (学習者3人) [やり方] まず教師主導のもとで1問実施し、やり方を確認していた。 [時間] 順調に進められていた。 [進行] 指示 (例文音読) に従わずに進めていた。	× ○ △

以下、表1, 表2で「×」あるいは「△」の印がついている箇所、すなわち、何らかの問題点が見られた箇所を中心に見ていく。

練習方法の理解

学習者同士で出題・解答する形式のグループ練習(表1)においては、出題のためのクイズ・例文の作り方について、学習者の理解が十分得られていないものがあつた。当該漢字と関連するほかの漢字を用いてクイズを作る練習(『IMK1』L1), および、ある語と置き換え可能な語を用いて例文を作る練習(『IMK2』L6)で、学習者同士でやり方を説明したり、教師がサポートしたりしていた。一方、同じクイズ・例文作りでも、語の意味や対語をもとにその語を当てるクイズを学習者自身で作る練習(『IMK2』L1), および、ある語を用いて例文を作る練習(『IMK1』L2, L5)ではスムーズに理解できていた。より複雑で難易度の高い課題では、練習のやり方そのものの理解も難しさを増すことが分かる。

学習者全員で解答を求める形式のグループ練習(表2)においては、解答の求め方について、学習者の理解が不十分なものがあつた。グループの構成員がそれぞれ異なる内容のワークシートを持ち、学習者同士でワークシートの情報を総合して解答を求める練習(『IMK2』L2, L14, L16)は、指示文も複雑になってしまい、理解が難しかったようだ。グループの構成員全員が各自のワークシートに入れる語が分からなかった場合に、どう練習を進めていくかといった問題も生じていた。

さらに、学習者同士で出題・解答する形式のグループ練習(表1)と学習者全員で解答を求める形式のグループ練習(表2)の両方にかかわるものとして、カードの扱い方がある。カードの置き方や出し方についてTAがアドバイスしたり学習者同士で相談している練習(『IMK1』L3, 復習1, L7), カードの使用回数について学習者がなかなか気づかなかった練習(『IMK2』L5), カードとワークシートを使ってどのように活動を進めていけばよいかをTAに尋ねている練習(『IMK1』復習1)などが見られた。カードの扱い方が問題となった練習はいずれも、複数のカードを用いたり、カードとワークシートを併用しながら練習活動を進めていく形式のものである。また、出題・解答の順番について、ほとんどの練習では学習者同士で交互に出題・解答を行っていたが、中に1つ出題者、解答者を固定したまま、活動を進めている練習(『IMK2』L3)があつた。表1の練習の中でこの練習のみ、出題文をワークシートではなく、カードで用意してあつたのだが、出題用の例文カードを持つ人と、例文に入れる熟語カードを持つ人というように、間違つてカードを分けてしまったことが、出題者、解答者の固定に結び付いてしまったようだ。これも、カードの扱い方にかかわる問題と言えるだろう。

グループ練習の時間

グループ練習の時間は、グループでの活動に入る前の個人での作業で時間がかかりすぎたものと、グループでの活動に時間がかかったもの、この2つに分けられる。

まず、グループでの活動に入る前の個人での作業で時間がかかりすぎたものとしては、クイズ・例文

作成(『IMK1』L1, 『IMK2』L6), 文脈等から判断して学習者自身で文中に入る熟語を考える練習(『IMK2』L2, L14), 平仮名の語を漢字にした後に共起可能な名詞を探す練習(『IMK2』L8), 語の意味を考えて説明する練習(『IMK2』L15)の4つがある。このうち、クイズ・例文作成においては、長い例文を作ろうとする学習者がいる一方、辞書の例文をそのまま利用する学習者もいたため、作る時間にかかなりの個人差が生じ、待たせている学習者がほかの学習者のことを気にしていたり、待っている学習者が時間を持て余している様子も見られた。

次に、グループでの活動に時間がかかったものとしては、カードを組み合わせて漢字や熟語を作る練習(『IMK1』L3, 復習1)と神経衰弱の要領でカードを組み合わせて熟語を作る練習(『IMK2』L5)がある。どちらもカードを使った練習で、学習者全員で解答を求める形式のグループ練習(表2)である。ワークシート形式であれば、解答できる箇所から先に解いていくことができるが、カードは出た順番に答えていく形になるため、全体を見渡すことが困難なことも時間がかかる原因になったと思われる。

グループ練習の活動の進行

学習者同士で出題・解答する形式のグループ練習(表1)においては、不適切・不自然な内容のクイズ・例文作成が問題となっている練習(『IMK1』L1, L2, L5, 『IMK2』L1, L6, L10)が多かった。中には、別の語を用いるべき例文を作って出題してしまい、そのため出題・解答が円滑に行われていない場合もあった。これ以外には、解答を口頭で伝えることによる助詞の言い間違い(『IMK2』L8)があった。

学習者全員で解答を求める形式のグループ練習(表2)においては、グループの学習者全員が答えが分からずになかなか進められなかったもの(『IMK1』L3, 復習1, 『IMK2』L11, L14)が多かった。学習者らがぼやく様子も度々見られた。また、例文を音読するという指示に従わずに、文の番号を読み上げながら活動を進行しているもの(『IMK2』L2, L4, L5, L11, L16)も多く見られた。このほかには、グループでの活動がかなり進んだ段階でようやく最初のほうで作った熟語の間違いに気づいてやり直すことになった練習(『IMK2』L4)や、熟語の微妙な使い分けに関する知識が必要な、このレベルの学習者にとっては難易度の高すぎる練習(『IMK2』L11)もあった。

5 学習者へのインタビュー

2012年度後期の授業終了時に、グループ練習に参加した学習者8人(ロシア4人, 韓国3人, ブラジル1人)に対してインタビューを行った。このうち、グループ練習のやり方, 時間, 練習内容の改善にかかわるコメントを紹介する。

まず、やり方については、「分かりにくいものはなかった。説明を読んでから、TAに説明してもらったことで、自分の理解が正しいかどうか確認できた。」「説明を聞いたら分かりにくいということはないが、でも、過程がもっと簡潔な練習だったらよかったと思う。」「分かりにくかった。説明をちょっと読んだらすぐに練習のポイントが分かる練習がいいと思う。」などの意見があった。教師やTAの説明があればすぐに理解できるものでも、指示文だけ読んで理解するのはハードルが高いことが分かる。

時間については、「難しい練習はすごく時間がかかった。30分以上かかるのは長すぎる。」「時々足りなかったけど、30分以上はつまらなくなってしまう。30分以内に間に合うぐらいがいい。」などの意見があり、全体的に20分～30分ぐらいが適当だと考える学習者が多かった。

練習内容については、カードを組み合わせて漢字や熟語を作る練習に対しての意見が多かった。「時間がかかりすぎて難しいと思った。一度に見る漢字の数が多すぎるし、カードを広げるスペースもないので見にくかった。」「自分たちで作った言葉が実際に存在する言葉なのかどうかを確認するのに時間がかかった。」「漢字を組み合わせて言葉を作る練習が役に立ったが、難しかった。」といった意見があった。このほかには、「似ている意味の漢字の使い分けが難しいので、それが練習できればよかった。もっとたくさん例文を見たい。」という要望もあった。

6 教材改善に向けて

第4節でグループ練習時の学習者らのやり取りの録音・音声データ等をもとに、どのような練習において活動が円滑に進まなかったか、そして、第5節でグループ練習を行った学習者へのインタビューをもとに、学習者がどのような点で困難を感じたかを述べたが、これらの結果から得られた、今後教材を改善するためのポイントを以下にまとめる。

第1に、指示文をより簡潔に示す必要がある。学習者だけでグループ練習を進めていく際に、度々問題となったのが練習のやり方である。教師やTAの簡単な補足説明があればすぐに理解できるような平易な日本語で書かれた指示文であっても、同様の練習を行った経験がない場合は、ワークシートに書かれた指示文を読むだけでやり方を把握するのは困難なことが多い。指示文をより分かりやすくするには、練習内容を簡潔にすること、また、複数のステップを踏む練習活動では、それぞれのステップごとに指示を出すような工夫が考えられる。

第2に、グループ練習の内容をより平易にする必要がある。一部の練習では、学習者だけで活動を進めていくには難易度が高すぎて、解答になかなかどり着けずに、やる気を失っていく様子も見られた。学習者だけで進めていきやすいように、これまで1つの練習活動として取り上げていた内容を分けて提示したり、問い方を変えて練習の難易度を調整したり、より分かりやすい例文に修正するなどの工夫が考えられる。

第3に、教師の援助なしのグループ練習においては、学習者によるクイズ・例文作成は扱わないよう、見直す必要がある。これまで、学習者の作成した例文が日本語として不自然な場合は、授業後にワークシートを回収し、教師がチェックして学習者にフィードバックする形で対応できると考えていた。しかし、今回の分析を通じて、例文の不適切さが練習活動に大きく影響する場合もあることが分かった。学習者自身でクイズや例文を作るという練習は、教師やTAの援助が可能なきのみ行う形に改めたい。

第4に、例文の提示方法について工夫する必要がある。学習者が例文を音読するという指示に従わずに文の番号を読みながら活動を進めていたものは、例文に番号が振ってあり、また、グループの構成員全員が同様に例文を見られることから音読の必然性がないものであった。例文に番号を振らないようにすることのほかに、長い例文では全文を読まなくても済むようにポイントとなる箇所を強調して提示する、また、グループの構成員にそれぞれ異なる例文を持たせて音読が必須となる状況を作るといった方法で、学習者が声に出して読む機会を増やしたい。

第5に、解答の与え方について工夫する必要がある。答えがなかなか分からない場合、学習者だけではうまく練習を進めていけなくなってしまうことがある。答えやすい問題から先に表示したり、学習者の習得状況に応じて問題数を調節したりといった工夫が考えられる。また、学習者自身でどこで間違えたのかを把握しやすいような仕組みを新たに考えていかなければならない。

第6に、一度に使用するカードの種類や枚数を制限する必要がある。学習者がある場で1つ1つ答えを確認しやすくなるように、また、カードゲームの要素も盛り込めるように、複数の種類のカードを使って活動を進めていくような練習を多く設けた。しかし、カードの多さが活動のしづらさに結び付く可能性があること、特に、漢字を不得手とする学習者にとってはカードの多さが心理的な負担になっていることもうかがわれた。カードの使用についても、より単純化したほうがよい。

最後に、ゲーム的要素の取り入れには注意を要する。ゲーム的要素を盛り込んだほうが楽しく練習を進められるのではないかと考えたが、実際には、グループ内で勝敗を楽しむ様子はほとんど見られなかった。授業前の自宅学習として課している予習ワークシート、授業中の教師による導入・説明・練習を通して何度も目にした語であっても、数が多いために十分に覚えられていないこともあり、ゲーム的要素を楽しむ余裕がまだないのだろう。ゲーム的要素を取り入れることよりも、漢字や語彙を確認する回数を増やし、より多くの例文に触れる機会を与えるものとしてグループ練習を捉え、教材開発を進めたほうがよいようである。

教師の援助なしで学習者だけでグループ練習の活動を行わなければならない場合、まず、練習内容の検討において、教師の援助がなくても円滑に活動できる内容とそうでない内容とを見極めることが大切

である。その上で、通常教師がグループの活動中に傍らでモニタリングし、働きかけることで支援していることを補うような工夫が教材に求められる。本稿における分析結果をもとに、現在、教材の改訂を進めている。今後は、教材改訂による効果の有無を検証して、より良いグループ練習用教材の開発につなげていきたい。

謝辞

本研究を行うにあたり、快く調査に協力してくださったグループ練習参加者の皆さんに深く感謝いたします。また、データの収集・整理に協力してくださった白崎友貴さん、永田泰代さんに心より御礼申し上げます。

なお、本研究は、科学研究費補助金基盤研究(C)「漢字教育におけるグループ学習－学習効果の検証と教材の開発－」平成24-26年度(課題番号24520574)による成果の一部です。

注

- 1) ジョンソン, ジョンソン&ホルベック(2010)で「ジクソー法」として紹介されている。ジクソーパズルのように教材を部分部分に分け、グループの各メンバーに課題の達成に必要な教材の一部だけを与えて、最終的にそれらが統合させるようにする方法で、これによりグループとしての達成のために、ひとりひとりのメンバーの積極的な参加を促すことができる。
- 2) 日本の大学で学ぶ外国人留学生を対象とした授業で、交流協定校からの短期留学生、日本語・日本文化研修留学生、大学院生、研究生等が受講している。各期15週、週1回90分の授業が行われる。漢字の授業は、中級クラスと上級クラスの共通科目として開講されているため、受講者の漢字の習熟度の開きが大きい。2012年度前期は、教科書として『ストーリーで覚える漢字300』(くろしお出版)を用いるグループ、『漢字1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.2(凡人社)を初めて用いるグループ、同教科書を途中から用いるグループの3つのグループ、後期は、『基礎漢字500 BASIC KANJI BOOK』VOL.2(凡人社)を用いるグループ、『漢字1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.1(凡人社)を用いるグループ、『漢字1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』VOL.2(凡人社)を初めて用いるグループ、同教科書を途中から用いるグループの4グループに分けて、複式で授業を行った。
- 3) グループ練習は学習者のみで進めていく活動であるため、学習者同士のやり取りが中心となるが、練習が円滑に進んでいないときには、教師やTAがアドバイスすることもあり、音声データの中に一部、教師やTAの発言が含まれている。
- 4) グループ練習の録音は、事前に学習者に承諾を得た上で行った。録音と同時に録画も行ったが、今回の分析では、音声データのみを用いた。音声データを文字化する際に、学習者の名前は別名で入力するなど個人が特定できないように配慮した。
- 5) 日本語教育能力検定試験に合格した日本語母語話者で、データの記録のほか、グループ練習で学習者から質問があった場合などへの対応を依頼した。
- 6) 前期は5人の学習者(中国3人、ロシア1人、ブラジル1人)が『IMK2』のグループ練習を行った。後期は3人の学習者(ロシア1人、韓国2人)が『IMK1』のグループ練習、6人の学習者(ロシア3人、韓国2人、ブラジル1人)が『IMK2』のグループ練習を行った。2人の学習者(ロシア人1人、ブラジル人1人)は前期、後期の両方に参加した。
- 7) 実際に授業ではもっと多くのグループ練習を行ったが、録音が途中で切れてしまった回や録音状態が良くなかった回があり、それらは分析の対象から外した。
- 8) この回は、『IMK1』グループの学習者が1人しか出席していなかったため、TA(日本語母語話者)とグループ練習を行った。

参考文献

- (1) ジョンソン, D.W., ジョンソン, R.T.&ホルベック, E.J. (2010)『改訂新版 学習の輪－学び合いの協同教育入門－』石田裕久・梅原巳代子(訳), 二瓶社
- (2) 高島智美・濱田美和(2010)「複数レベルの学習者を対象とした漢字クラスの授業改善及び教材開発－学習者の学びの活性化のための試み－」『富山大学留学生センター紀要』第9号, pp.9-18